

Vol.100

2022.11

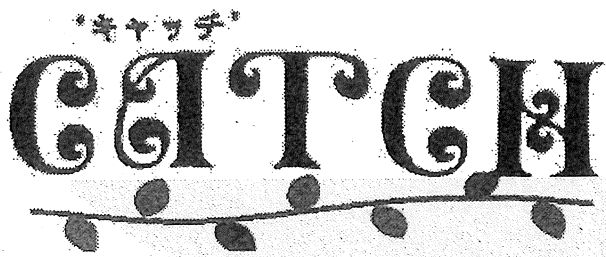
Anniversary



‘キャラチ’
CATCH

西東京市図書館

記念すべき第 100 号！



の歴史をたどる！

今回は、「CATCH」100号記念として、過去の「CATCH」に紹介された本の中から、現編集委員が気になる作品を読み、それぞれの言葉であらためて紹介します！

『ふたり』

Vol.85 2017年11月
福田隆浩 著 講談社

昔読んだ本を読み返すのって楽しいと思いませんか？

主人公の^{じゅん}准や^{かすみ}佳純も昔読んだ本を読み返します。舞台は小学校。六年生の終わりに関わらず、途中から転校してきたことによってクラスで少し浮いてしまっている佳純。准はそんな佳純を気にかけて、いつものように好きな作家「^{つきもりかず}月森和」の新作について考えていました。月森和の本を持っている准を見た佳純は思わず准に声をかけます。そう、佳純も彼と同じように月森和のファンだったのです。その後二人は一緒に図書館へ行き、二人で月森和の小説を読みました。

その日の夜、母と離婚して別居している父と准は電話で月森和についての話をします。准や佳純の知る通り、月森和は覆面作家であり年齢も性別もわ

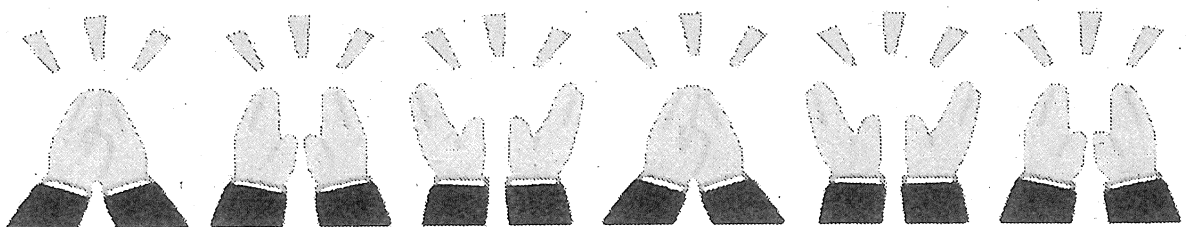
からないこと。そして、准も知らなかった、月森和には別名義があること。准は情報をあまり手に入れられないまま、その日の電話を終えました。

前日にまた図書館で会う約束をしていた二人は再び図書館で本を読みます。そして准は昨日お父さんと話した月森和の別名義の話を持ち出し、二人でその別名義で書かれた本を見つけることにするのでした。ヒントは今までの小説の中にあると信じ、二人は小説を読み返します。

物語の本筋としては月森和の別名義を探すことですが、そこから離れた、小学生ならではの人間関係もポイントだと思います。私は小学生の頃にもこの本を読みましたが、当時は自分自身を彼らに重ねていたのに対し、今回読んだら当時の自分を思い出しました。きっと月森和の小説をじっくり読み返した彼らも初めて読んだ時の自分を思い出したのではないのでしょうか。

「CATCH」も100号となり、たくさんの本を紹介してきました。バックナンバーを見返せば皆さんが昔に読んだ本もあるでしょう。ぜひ読んでみて懐かしい気分にあぐらに浸ってみるのもいいかもしれません。また、以前のCATCHを見返すと、^ヤ ^イ ^ヤ ^イ ^ヤ ^イ ひろばがあったり、手書きの一言があったりと、人間味を感じられることがたくさんあります。ぜひ機会があれば読んでみるといいかもしれません。

100号おめでとう！



『スタンド・バイ・ミー』

Vol.8 1990年12月

スティーヴン・キング 著 新潮社

stand by me、英語で「私のそばにいて」。

このお話は、それぞれの四季を舞台にした中編4作の中の一つ、晩夏に近い秋の一編です。物語は、12歳の悪ガキ仲間、4人の少年が、森の奥に同じ年の子どもの死体があるという噂を聞きつけ幕を開けます。当然4人は街を離れ1泊2日、鉄道線路に沿って死体探しの冒険へ出ます。

長い旅の末、4人を待ち受けていたのは一体何だったのでしょうか。軽口を叩き、時にはけんかをしながらも進んでいく成長物語です。映画化もしているので、観たことのある方も多いと思います。4人の少年はそれぞれ重荷を背負っていて、お互いの傷をかばい合いながらがむしゃらに走ってゆきます。その泥臭い姿はこの作品の魅力の一つです。

最後まで読むと長旅から帰ってきたような達成感でいっぱいになります。日差しに照らされて光る線路、黒色の目をした雌鹿、ダムの水たまり。

どこか懐かしい、死体探しの旅へ出てみませんか？

『百年前の二十世紀』

Vol.35 2001年3月

横田順彌 著 筑摩書房

今より発展した未来を想像する、ということが下地にある作品は多くあります。日本なら国民的漫画である『ドラえもん』等がそうですし、海外でも『バックトゥザフューチャー』等が挙げられるでしょう。これらの作品は

20 世紀以降に生み出されたものですが、未来予想は何も 20 世紀以降の人々だけの特権ではありません。今回紹介する『百年前の二十世紀』は、SF 作家でもある著者の横田さんが、当時の SF 作品等を中心に「明治・大正時代の人々の想像した 20 世紀」を紹介した本です。この本の中で紹介される想像は義手ならぬ義首や飛行船による空中戦のような突飛なものから新幹線や公害の登場といった現実的なものまで多種多様で、こういった想像と今の社会を見比べてみるのも面白いかもしれません。

また、この本自体が 1994 年の出版から既に 20 年以上経つということが私たちにまた新しいこの本の楽しみ方を提供してくれます。例えば、この本の中ではテレビ電話という未来予想に対して「個人での普及はしにくい、企業で普及する可能性はあるかもしれない」としていますが、今ではコロナ禍で Zoom が広まったことでオンライン通話の機会も増えました。このように技術も社会も絶え間なく変化していくものです。皆さんもこの本を読んで、自分なりの未来予想をしてみると面白いかもしれません。

『チョコレートコスモス』

Vol.81 2016 年 7 月

恩田陸 著 毎日新聞社

この本に出てくる登場人物達は皆何らかの形で「演劇」に関わっています。

若いが経験豊富な実力派女優・響子、大学生達でつくる劇団に所属している翼、なかなか売れている脚本家の神谷。立場も職業も違う彼らの前に佐々木飛鳥という少女が現れます。彼女は演劇経験もない、一見すると地味で目立た

ない様子ですが、一度演技を始めると計り知れない力で見る者を引きつける才能の持ち主でした。

飛鳥を前にして登場人物達は彼女の恐ろしささえ覚える未知数の可能性を感じます。彼らは飛鳥をきっかけに自分自身と向き合い演劇のより深いところへのめり込んでいきます。

この作品の面白いところは演劇の描写です。演じる側、見る側、役者から演出家などそれぞれの視点の感じ方や考え方が描かれています。役者が一体となり、劇が完成していく気持ち良さがリアルに描かれています。

私は高校に入ってから演劇部に所属していますが、この小説で描かれる練習や脚本を考える時点で苦労が重ねられていること、なかなか上手くいかなくてもどかしく、余裕が無くなることなど共感することが多かったです。演劇は面倒くさいことも多いし大変なことだけど、真剣に向き合ってつき進んでいけばとても楽しくて面白いことなんだと、声を大にして伝えてくる小説です。

本気の登場人物の熱さにあふれた本に出会うことができました。

『風が強く吹いている』

Vol.74 2014年3月

三浦 しをん 著 新潮社

CATCH が 100 号を迎えるに図書館のスタッフさんからお勧めの本を提案して頂いた。その中の1冊がこの本だった。美味しいお店や鞆、化粧品などは全てインターネットで星の数と SNS で口コミを確認して選ぶけれど、本は難しい。図書館のスタッフさんは本のスペシャリスト！紹介して頂いた本

はどれも興味深く、皆さんも読む本に迷ったらぜひスタッフさんに声をかけてみてほしい。

この物語の主人公は走^{かける}、走るのが得意で大好きな男の子。でも若さゆえ過ちを犯しランナーとしての自分を失ってしまう。救世主として現れるのが、怪我で走ることから一旦離脱してしまったハイジだ。ランナーにとっての夢の舞台、箱根駅伝を目指す物語だ。素人とさほど変わらない10人のメンバーが時にぶつかり、挫折し励ましあって同じ目標を目指す。言葉でいうのは簡単だけど、実際に行動することは難儀だ。オリンピックに出る実力者でも様々な壁にぶつかり復活したり、消えて行ったり。その違いが何なのか、これから大人として人生を歩き出す前に、大切なことは何かをじっくり考え、そして爽快な気持ちで読破できるお勧めの1冊だ。

スポーツに興味がなくても、物語に引き込まれるだろう。ぜひ手に取ってほしい。

いっしょに「CATCH」をつくりませんか？ ～共同編集者募集のお知らせ～

令和5年度の共同編集者を、この冬から募集予定です。

くわしい活動内容や応募方法については、

12月以降に図書館のHPやポスターでお知らせします。

ぜひあなたのアイデアやセンスで、魅力的なCATCHを作りましょう！



100号で本を紹介した

共同編集者のつぶやき

～編集後記に代えて～

今回のテーマ、「CATCH」の歴史をたどる！では、現編集員が、それぞれの新しい視点で、過去掲載された本を紹介しました。

今月の号では紹介しきれなかったため、次号も続きをご紹介します。

①アオイ

②バックナンバーを見返してみると、初めから今の形だった訳ではなく、様々な試行錯誤を経て今の形に至ったということが伺えてとても面白かったです。また、CATCHが何気に自分よりも年上だという事実にも驚きました…

③最近是新書ばかり読んでいます。新書界限も読みやすいレベルも増えてきているので中高生の皆さんも読書の秋を機に新書などいかがでしょうか。

①ひまわり

②興味深い本がたくさんあるので一冊ずつ読破したいと思います。

③実習にバイトに忙しい毎日ですが、カフェでの読書の時間は至福の時間です。

①ペンネーム

②「CATCH」のバックナンバーを見ての感想

③近況

①リーリー

②今回紹介した本は、2006年に発行された本。内容的に最近のものとの違いはあまり見られなかったように思う。

③部活動がとても楽しいです。最近図書室で本を3冊借りました。

①しい

②今と違うところがいろいろあって面白い

③勉強・委員会・部活と、だれよりも高校生活をエンジョイしています。

①ひより

②記念すべき100号の制作に携われて光栄です！！

③食欲の秋なので、飼っている金魚の食いつきがとても良いです。

